文部科学省

外国語教育の充実について

初等中等教育局教育課程課

新学習指導要領における
小・中・高を通した外国語教育の改善

パフォーマンステストの実施を前提とした観点別評価

CEFR※
B2（英検準1級等）
B1（英検2級等）
A2（英検準2級等）
A1（英検3級等）

旧学習指導要領（H20・21改訂）

・学年が上がるにつれて意欲に課題
・学校種間の接続が不十分

高等学校
英検準2級程度以上の生徒
40.2%（目標50%）*H30
・学習意欲、発信力に課題
・言語活動が十分でない

中学校
年間140単位時間（週4コマ程度）
英検3級程度以上の生徒
42.6%（目標50%）*H30
・小学校の学習経験が十分に生かしきれていない
・言語活動が十分でない

小学校
年間35単位時間（週1コマ程度）
活動
・音声を中心に英語に慣れ親しんでいる
・中学校入学時の学習意欲が向上

高校卒業レベル
旧: 3,000語程度
新: 4,000 ～ 5,000語程度

高等学校で
旧: 1,800語程度
新: 1,800 ～ 2,500語程度

中学校で
旧:1,200語程度
新:1,600 ～ 1,800語程度

小学校で
新: 600 ～ 700語程度

新学習指導要領（H29・30改訂）

小学校2020（令和2）年度、中
高等学校2022年度（令和4年

「英語を使って何が出来るようになるか」という観点から、
小・中・高等学校を通じた5つの領域別（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り・発表］」「書くこと」）の目標を設定

高等学校
・**5領域を総合的に扱う科目**群（英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ,Ⅲ）、
ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄやﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ等を通して**発信力を高める科目**群（論理・表現Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ）を設定
授業は外国語で行うことを基本（前回改訂より）

中学校
年間140単位時間（週4コマ程度）
・外国語で**自分自身の考えや気持ちなどを伝え合う対話的な活動**を重視
・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを**実際に活用する言語活動を充実**
・**授業は外国語**で行うことを基本

小学校
5・6年（**教科**）　年間70単位時間（**週2コマ**程度）
・音声に十分慣れ親しんだ上で、段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
・指導の系統性を確保
（15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能）

3・4年（**活動**）　年間35単位時間（**週1コマ**程度）
・「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」を中心
・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

【2020年度～】
大学入試改革

改善のためのPDCAサイクル
高校生のための学びの基礎診断
【2019年度～】

改善のためのPDCAサイクル
全国学力・学習状況調査
※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する調査を実施
【2019年度～】

※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

小・中の円滑な接続と中学校における移行期間への対応

教科「外国語」を学習してきた児童の受け入れ

小学校で「音声」でのやり取り、「文字」にも慣れ親しむ学習を行ってきた児童が今後中学校へ入学する。

2024年度までの間、毎年度、小学校での総学習量の異なる新中学校１年生を迎える。
このため、小中学校の外国語教育の接続を円滑にする
導入期（４月当初）の学習への工夫や、「話すこと〔やり取り〕」の指導の充実が必要

中学校学習指導要領の全面実施への対応

2020年度の**中１生・中２生は、中学校在学途中に新学習指導要領に移行**する。

このため、**新たに追加される文法事項や語彙数の増加に計画的に対応することが必要**

○移行期間における教師用指導資料の提供

- **「小中接続単元」**
  小学校第６学年の終盤から中学校第１学年の４月における単元指導計画・展開案
- **「帯活動」**
  話すこと［やり取り］の充実のため、約10分間で**Small Talk**の実施を想定した、年間計画・展開案

○生徒用補助教材 “Bridge” を配布

- 様々な話を読みながら，新しく追加される文法事項などについて学ぶことができる補助教材　（文科省HPでも公開中）
- 休業中の学習にも使用可能

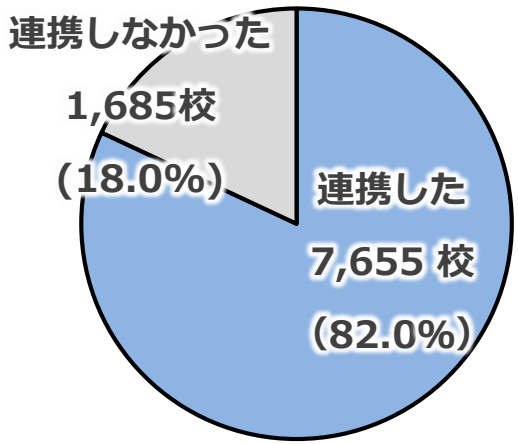
※活用方法の参考動画を公開中
（公益財団法人日本英語検定協会作成、文部科学省協力）

小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

・小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.0%であり、未だに全学校には至っていない。地域によって、大きな差があることが課題。

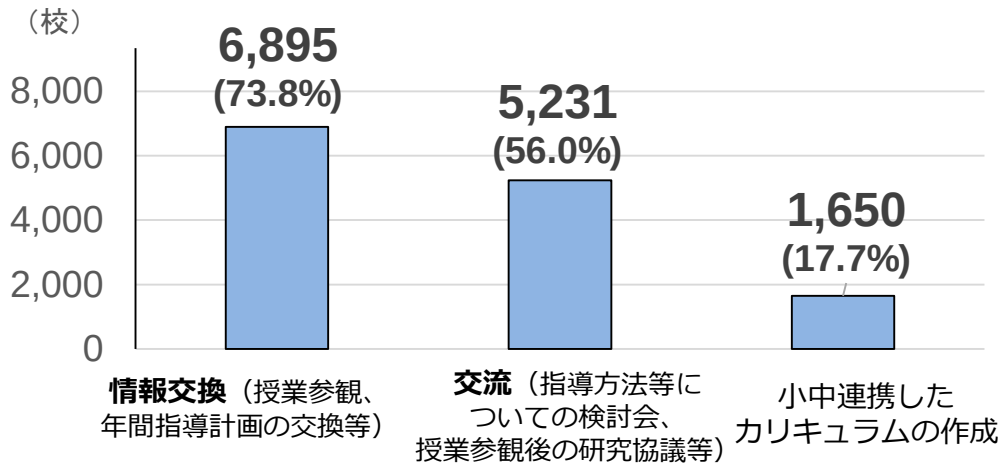
・多忙な小・中学校の実情を踏まえつつ、相互理解を深める工夫が求められている。

小学校との連携に取り組んでいる中学校



※全体数は、調査対象の中学校9,340校。

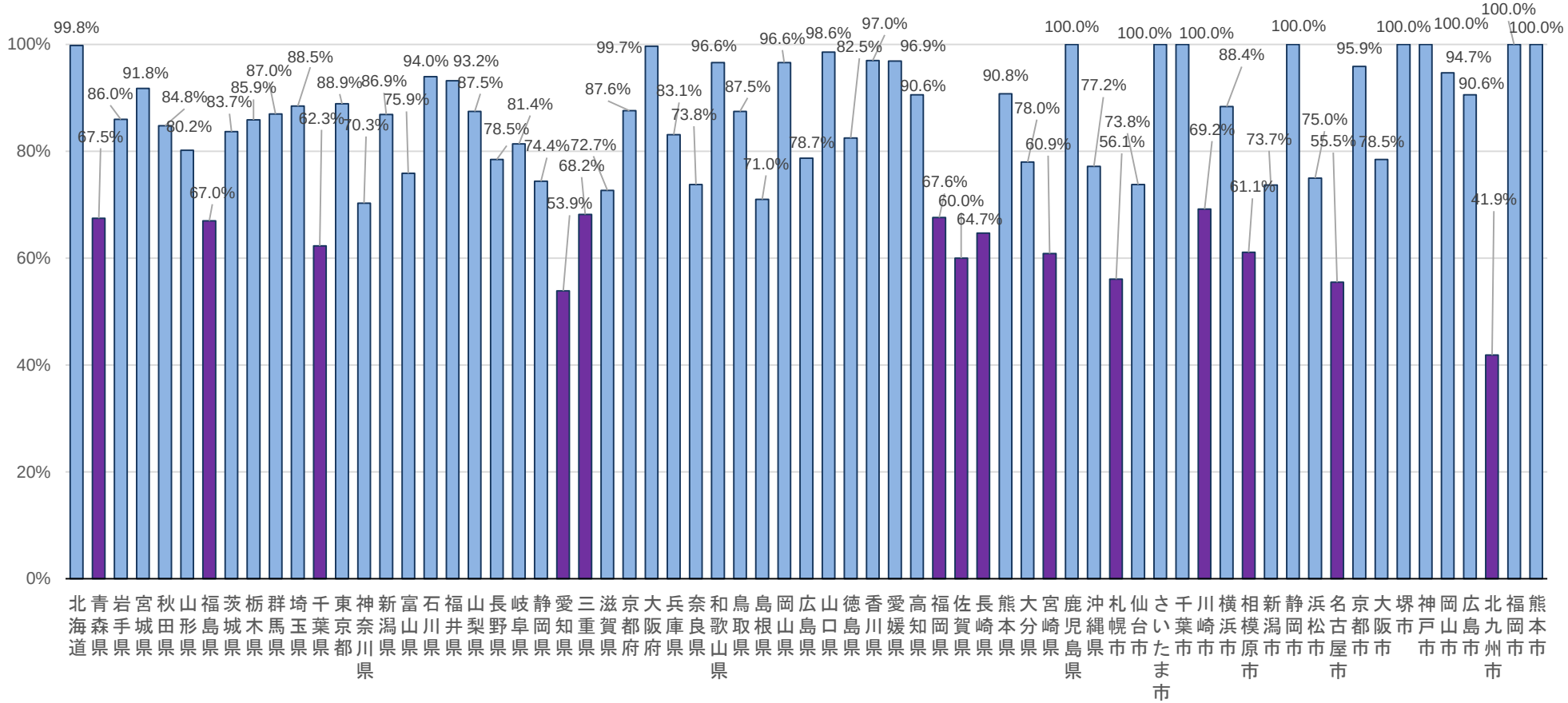
【中学校と小学校との連携の形態】



「連携しなかった」という回答が3割を越えていた教育委員会
青森県、福島県、千葉県、愛知県、三重県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県、札幌市、川崎市、相模原市、名古屋市、北九州市

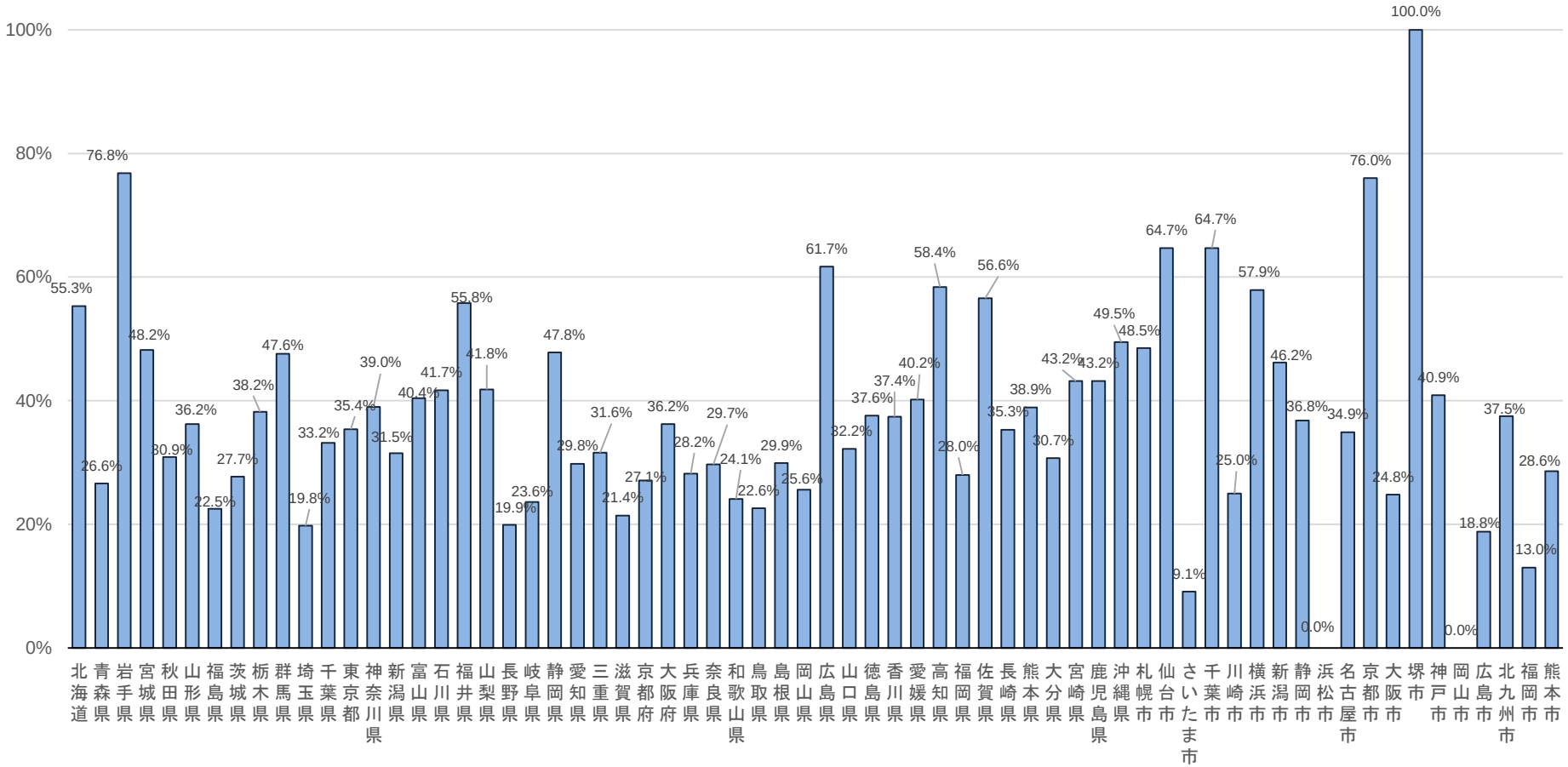
小・中連携の状況

小学校と連携している中学校の割合



高等学校

スピーキングテスト・ライティングテストの両方を行っている割合
（全学科、全科目平均）



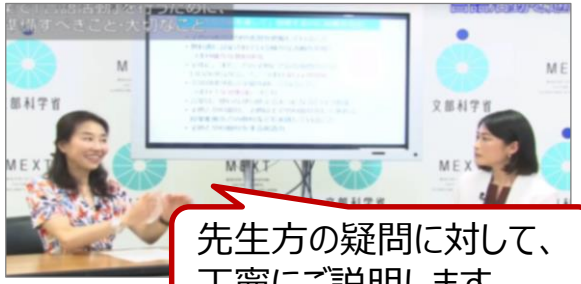
YouTube 文部科学省公式チャンネル　MEXT Channel　外国語教育はこう変わる！

- **新学習指導要領**に基づく授業改善についての動画シリーズ
  （12/１現在35本掲載、累積視聴数約45万回）※随時、追加中
- 実際の**授業ダイジェスト**、有識者や視学官・調査官による解説
- **１本15分程度**で構成、校内研修等でも活用可能

小６・中３向け
振り返り学習教材の
ポイントを解説

2020最新シリーズ

新学習指導要領**全面実施**対応
「なるほど！小学校外国語」



先生方の疑問に対して、
丁寧にご説明します

①言語活動　②読むこと・書くこと　③学習評価

学習評価についての解説動画

（公益財団法人日本英語検定協会「英語情報ＷＥＢ」掲載）

文部科学省の視学官・教科調査官から、
「『指導と評価の一体化』のための学習評価の参考資料」（小学校・中学校外国語）
の考え方や、掲載事例について紹介
-小学校３本、中学校５本掲載中

ＩＣＴ活用の解説シリーズ

小・中・高等学校の各教科ごとに、ICTの具体的な活用事例等を紹介